

施策番号 2-1-1	施策名 学校教育の充実	基本目標	心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり			
		政策名	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実			
	主管課	教育推進課	課長名	有澤勝昭	内線	441
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
地域社会と連携しながら信頼される学校づくりを推進し、新しい時代を自ら切り拓くことができる心豊かな人づくりを目指します。		児童生徒	・確かな学力、豊かな心と健やかな体を育み、未来を切り開くための資質・能力を身につける				児童生徒が社会に出たときに自立できる
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度目標
① 「授業の内容がわかる」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	75.8	74.0	77.1	72.9	80.0
② 「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	72.2	77.4	75.8	79.5	78.0
③ 「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	85.7	87.7	85.2	87.7	90.0
④							
成果指標設定の考え方	成果指標の設定は、全国学力・学習状況調査の結果を採用し、「豊かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む上で、3つの指標を設定した。目標値の設定は、各成果指標共に5%程度の上昇を目指し設定した。						

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算
施策事業費(千円)	907,458	895,658	1,184,039	1,049,496
人工数(業務量)	6.4412	7.0169	7.5902	7.5132

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2021年度の成果評価(前年度との比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	成果指標②と③は上昇したが①は低下。⇒①の低下は、コロナ禍における学級閉鎖により、幾度と学習スケジュールの変更を余儀なくされたことも要因と思われる。なお、学力調査における点数では、低下は伺えない。
②2022年度の目標達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	①、②の指標については、小学校全学年での35人以下学級編成や授業改善推進チームの組織的定着、地域コーディネーター複数配置による特別支援教育の充実、児童生徒一人一台端末の配布による個に応じた学習支援の推進、更には、令和3年度に策定した「不登校支援システム」を運用することで目標達成を目指す。 ③の指標については、栄養教諭による全校全学級を対象とした食育指導の継続や令和3年度より開始した「食農教育」の充実により目標達成を目指す。
(2) 施策の成果評価に対する2021年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	①児童生徒支援事業 ②小学校・中学校教材・教具整備事業 ③学校給食管理運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・「①」⇒小学校全学年35人以下学級編成のため、町独自で臨時教諭を配置した。特別支援教育の推進のため、地域コーディネーターや教育活動指導助手、学校支援員を配置、不登校支援システムを策定し、し個に応じた学習支援を実施した。 ・「②」⇒学校におけるICT教育推進のため、令和3年度から児童生徒一人一台の端末を配備すると共に、大型提示装置や学習支援ソフト(AIドリル、プログラミンソフト)を導入し、個別最適な学環境を整備した。 ・「③」⇒栄養教諭による全校全学級の食育指導を実施すると共に、芽室産食材を活用した「めむるまるごと給食」の提供や「食農教育」の充実を進めた。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)							
担当課 評価	少人数学級編成、特別支援教育、不登支援、ICT教育環境の整備など、誰一人取り残すことのない個に応じた学びの場の充実を図ること、計画策定時と比較し前進したと考える。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	

A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》</p> <p>①学校施設などの老朽化対策や多様なニーズへの対応。(R1:学校施設等長寿命化計画策定)／②「社会に開かれた教育課程」の実現を重視した新学習指導要領への対応。(R2:小学校、R3:中学校で全面实施)／③特別な支援や配慮を必要とする児童生徒の増加への対応。(R2:地域コーディネーター複数配置)／④学校におけるICT環境整備への対応(R2:ICT整備・活用指針策定)⑤登校に困難を抱える児童生徒の増加への対応(R3:不登校支援システム策定)</p> <p>《今後の予測》</p> <p>①児童生徒数の減少を踏まえた計画的整備が必要である。／②コミュニティ・スクールの推進が必要である。／③発達支援システムに基づき地域コーディネーターを核とした組織的・計画的に進める必要である。／④国が推奨するICT環境の整備は完了したが、活用について研究を進める必要がある。／⑤不登校支援システムに基づき、初期・中長期対応を組織的・計画的に進める必要がある。</p>
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<p>・「地域とともにある学校づくり」としてのコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進。(R1:学校運営協議会制度開始)</p> <p>・「GIGAスクール構想」の実現に向けたICT計画の策定。(R2:芽室町教育委員会ICT整備・活用指針策定)</p> <p>・食農教育の推進を踏まえた「めむろまるごと給食」の事業見直し。(R3:食農教育開始)</p>

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<ul style="list-style-type: none"> ●新学習指導要領実施など教育環境の整備に向けた対応(児童生徒支援事業、小学校・中学校教材・教具整備事業) <ul style="list-style-type: none"> ⇒外国語活動・外国語科の推進に向けた英語指導助手の配置、ICT教育環境(活用面)の整備 ⇒少人数学級の継続、発達支援システムと連携した特別支援教育の充実に向けた人員の配置 ●学校施設などの環境整備(小学校・中学校施設維持管理事業) <ul style="list-style-type: none"> ⇒芽室町学校施設等長寿命化計画に基づき、少子化を踏まえた改修と多様なニーズに対応した施設整備 ●学校給食の提供や食育指導に向けた対応(学校給食管理運営事業) <ul style="list-style-type: none"> ⇒町単独の管理栄養士の配置による食育・食農教育の充実
--

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	教育委員会や先生の取組みを評価し、成果指標②と③が向上しており、不登校支援システム等の新しい取組みから、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・行政側からの発信が少し堅く、積極的な発信方法を考えて欲しい ・不登校システムは、専門家など専門性がより必要となるのではないか ・コロナ禍による影響に対して、ソフト面を強化してほしい ・不登校など悩みを抱えている生徒への支援を行ってほしい ・民生委員へ生徒の情報を公開してほしい ・5に記載の取組みを進めて下さい 	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した					